

ITS 分野における 国際共同研究について



高度情報化研究センター

高度道路交通システム研究室

室長 **金澤 文彦** 主任研究官 **渡邊 良一** 研究官 **田中 良寛** 研究官 **築地 貴裕**

(キーワード) プローブデータ、評価ツールと方法、国際標準

3.

成長力・国際競争力の強化

1. はじめに

高度道路交通システム研究室では、ITS (Intelligent Transport Systems) 分野において米国・欧州と研究協力を行っている。日米間では、1993年より毎年米国運輸省と二国間会議を行うとともに、実務者レベルの会合である日米タスクフォース会合を2009年より設置し、年数回開催している。日欧間では、1994年より毎年欧州委員会通信ネットワーク・コンテンツ・技術総局と二国間会議を行うとともに、電話会議等を通じて共同研究計画の策定に向けた意見交換を行っている。本稿では、特に日米間の共同研究において優先的に検討すべき分野として合意した「プローブデータ」、「評価ツールと方法」、「国際標準」の3分野について、研究の動向・成果を報告する。

2. 研究の動向・成果

「プローブデータ」については、日米タスクフォース会合を通じて、日米間のプローブシステム及びプローブデータ項目等の比較、及びプローブデータにより可能となるアプリケーションの候補(表参照)について議論を行い、2012年10月に中間報告書を取りまとめた。中間報告書はITS世界会議(ウィーン)で概要を発表するとともに、ファクトシート¹⁾を作成し配布した。今後は、アプリケーション候補の優先度付けを行ったうえで、選定アプリケーションのサービス定義及びシステム実現上の課題の整理を行い、2013年のITS世界会議(東京)までに最終報告書を取りまとめる予定である。

「評価ツールと方法」については、2012年10月に共同研究計画書を策定し、日米双方の路車協調システムに関する実験・シミュレーション事例にお

表 プローブデータにより可能となるアプリケーションの候補

アプリケーション	
1	交通管理指標の推定(旅行時間、速度、遅れなど)
2	ボトルネック位置の把握
3	事故多発地点の把握
4	通行止め箇所の把握
5	道路上の事象(障害物・停止車両等)の発見支援
6	渋滞継続時間の把握
7	舗装状況の把握
8	危険物運搬車両の把握
9	事故管理/緊急時の対応
10	経路案内
11	旅行者情報提供
12	高度信号システム
13	貨物車両の運行管理
14	公共交通の運行管理
15	ネットワークフローの最適化
16	エコシグナルの運用
17	エコレーン
18	動的な低酸素排出ゾーン
19	道路およびインフラの劣化診断

る評価指標・測定方法に関する比較・分析、用語定義の作成、評価指標・測定方法の分類・体系化、評価指標の測定等において得られた課題や教訓のとりまとめを行うことで合意した。2013年のITS世界会議(東京)までに中間報告書を取りまとめる予定である。

「国際標準」については、欧米政府間の協力分野の1つである協調ITSの標準化に関する「技術タスクフォース」の「標準化ワーキンググループ」に日本からもオブザーバ参加を続け、「セキュリティマネジメント」と「通信プロトコル」に関して情報収集や知見の提供を行っている。

3. 今後の展開

これまでの研究成果を踏まえ、今後は日米欧三極での研究協力を行っていく予定である。

【参考】

- 1) プローブデータ中間報告書ファクトシート
http://www.its.dot.gov/factsheets/us_japan_probedata.htm